

岡村中学校だより

あまだ いし うが
「雨垂れ石を穿つ」

校長 栗田 智 則

梅雨明けも間近とを感じる夏らしい本格的な暑さが続くようになりました。水分補給などの暑さ対策などを適切に行って、熱中症に十分に気を付けて生活していきたいものです。

6月に開幕したサッカーW杯北中米大会は、日本代表の戦いがとても盛り上がりました。運動部の夏の大会やコンクールも始まりました。3年生にとって中学校最後の大会です。熱心にプレーする生徒たちの姿が各会場で輝いています。応援のために集まった多くの保護者の皆さまや卒業生・在校生の姿にも、心が温まります。試合を通して、お互いを励ましあい鼓舞しあい、勝って喜び、負けて悔し涙を流す。それが人を大きく成長させる「学び」につながることは間違いありません。可能な限り応援に駆け付けたいと思います。

「雨垂れ石を穿つ」という言葉があります。軒下から落ちるわずかな雨垂れでも、長い年月をかけて同じところに落ち続ければ、硬くてじょうぶな石にも穴を開けることができるということです。これは、どんなに小さな力でも根気よく続けていれば、いつか成果が得られるというたとえで使われることがあります。自然教室で訪れた鳴沢氷穴。富士山の大噴火から長い時間をかけて形成された空洞で、自然の神秘を体感できる場所でした。紹介した言葉や氷穴などにみられる自然の力から人として学びたいことがあります。それは、何事にも懸命に打ち込んで努力すれば、どんな苦難な壁でも突破できるということ。そして、努力に費やした時間はとても偉大であるということです。

長い人生を大きく左右していくのは、「学び続けようとする姿勢」だと思っています。どんな状況にあっても「さあ、やるぞ!」という勢いのある人は、そこから人生を切り開いていける。だから、日々の勉強や多くの学びに「もう間に合わない」も「手遅れだ」も絶対になんとも感じません。「自分はだめだ」と思わないこと。頑張れる自分を知ってほしいと願っています。一番もったいないのは、結果が出ない、成績が上がらない、といって学ぶことや努力をやめてしまうことです。大事なことは「粘り強さ」です。

いよいよ夏休みを迎えます。1学期をしっかりと振り返り、それぞれの今できる「努力」、今からできる「努力」を再確認して、「挑戦」の夏を無事故で過ごしてほしいと思います。保護者・地域の皆さま、温かい見守りを、何卒よろしくお願い申し上げます。